

この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください。

体外診断用医薬品

2025 年 2 月改訂 (第 3 版)
2021 年 7 月作成 (第 2 版)
製造販売認証番号 231AFEZX00005000

アミラーゼアイソザイムキット

自動分析装置用

デタミナー L P-AMY G 7

免疫阻害法

【全般的な注意】

- 本品は体外診断用医薬品であり、それ以外の目的に使用しないでください。
- 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果などとあわせて、担当医師が総合的に判断してください。
- 電子添文以外の使用方法については保証を致しません。
- 使用する機器の電子添文及び取扱説明書をよく読んでから使用してください。
- 測定にあたって別売の標準品、酵素キャリブレータープラスを使用し測定した場合は J C C L S - S O P 法に抗 S - A M Y 阻害抗体を添加した系、温度管理がなされ求めた実測 K ファクターを使用し測定した場合も同様に J C C L S - S O P 法に抗 S - A M Y 阻害抗体を添加した系に該当します。

【形状・構造等（キットの構成）】

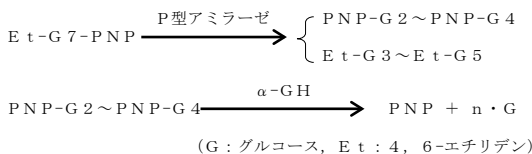
- 試薬 R-1
 - 抗 S 型アミラーゼ阻害抗体（マウス・モノクローナル抗体）
 - α -グルコシダーゼ
 - N a C l
 - C a (C H ₃ C O O) ₂
- 試薬 R-2
 - E t - G 7 - P N P
 - N a C l
 - C a (C H ₃ C O O) ₂

【使用目的】

血清、血漿又は尿中のアミラーゼ・アイソザイムの測定

【測定原理】

本測定法では検体中のアミラーゼアイソザイムの S 型、P 型アミラーゼのうち、S 型アミラーゼのみを特異的に阻害するモノクローナル抗体を用い、S 型アミラーゼのみを阻害します。残存している P 型アミラーゼにより非還元末端を修飾保護したエチリデン-パラニトロフェニル- α -D-マルトヘプタオシド（E t - G 7 - P N P）は加水分解を受け P N P - G 2 ~ P N P - G 4 が生成します。これに共役酵素である α -グルコシダーゼ（ α -G H）を作用させてパラニトロフェノール（P N P）を遊離させ、P N P の生成に伴う吸光度の増加速度を測定することにより P 型アミラーゼ活性値を求めます。



【操作上の注意】

測定試料の性質、採取法

- 血清及び血漿中のアミラーゼは安定ですが、保存する場合は濃縮や細菌の汚染を防止するため、密栓して冷蔵保存（2 ~ 1 0 °C, 1 ヶ月以内）あるいは凍結保存（- 2 0 °C 以下, 3 ヶ月以内）してください。
- 尿中アミラーゼは凍結保存により急速に失活することがありますので 2 ~ 1 0 °C に保存し、1 ヶ月以内に測定してください。
- 本キットによる測定には、血清、血漿および尿を検体として使用してください。
- 一般に使用されている血清分離剤、凝固促進剤、血漿分離剤（ポリエステルゲル）、ヘパリンによる影響はありませんが、フッ化ナトリウム入りの採血管で採血された試料の場合は低値を示します。
- 尿用の保存剤としては、アジ化ナトリウム、ホウ酸、ヒビテン等が使用可能ですが、濃塩酸、濃硝酸はこの試薬では適しませんので使用しないでください。

妨害物質

- アスコルビン酸などの共存物質は通常の濃度では影響ありませんが、ビリルビンが高濃度の場合は負の影響を与えることがあります。
- グルコース、マルトースは通常の濃度では影響ありません。

【用法・用量（操作方法）】

試薬の調製方法

- 第一試薬（R-1）：試薬 R-1 をそのまま使用します。2 ~ 1 0 °C で開栓状態を継続した場合、2 ヶ月間安定です。
- 第二試薬（R-2）：試薬 R-2 をそのまま使用します。2 ~ 1 0 °C で開栓状態を継続した場合、2 ヶ月間安定です。
- 標準品は別売の酵素キャリブレータープラスをご使用ください。

測定（操作）法

操作方法は自動分析装置により異なります。詳細な操作方法は各機種のパラメーターをご請求ください。

測定条件（日立-7180 の例）

分析法／測定ポイント：レート A 24-34
波長（副／主）：6 0 0 / 4 0 5 n m
検体量：2 . 1 μ L
試薬分注量（R 1）：1 2 0 μ L
試薬分注量（R 3）：3 0 μ L
(日立-7180 での第二試薬は R 3 の設定になります。)

【測定結果の判定法】

参考基準範囲⁴⁾⁵⁾

(酵素キャリブレータープラスを用いた場合)

血清 1 6 ~ 5 2 U / L
尿 1 1 ~ 3 8 3 U / L

【性能】

性能

- 感度試験
 - 精製水を試料として操作した場合の吸光度変化量は -0.001 ~ 0.004 / 分です。
 - 既知活性値の標準血清 (138 U/L) を試料として操作した場合の吸光度変化量は、ブランクを差し引くとき 0.011 ~ 0.017 / 分です。
- 正確性試験
活性値既知の管理用血清（ヒトプール血清）または管理用尿（ヒトプール尿）を測定するとき、測定値は既知活性値の $\pm 10.0\%$ 以内です。

3. 同時再現性試験
同一検体(ヒトプール血清)5回同時に測定するとき、測定値のCV値は5.0%以下です。
4. 測定範囲
本キットにおける試料中のP型アミラーゼの測定範囲は3~2000 U/Lです。

相関性試験成績

同一の測定法を採用している市販品との相関性は
 $y = 0.999x + 3.37$ (Y: 本法), $r = 0.999$ でした。

校正用基準物質

ReCCS JCCLS CRM-001
(酵素キャリブレーションプラス使用の場合)

【使用上又は取扱い上の注意】

取扱い上（危険防止）の注意

1. 試料（検体）はHIV, HBV, HCV等の感染の恐れがあるものとして取り扱ってください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペッティングを行わないでください。
2. 試薬には直接触れないように注意してください。誤って目や口に入ったり、皮膚に触れた場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。

使用上の注意

1. 試薬は指定された条件下で保管し、使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
2. 誤って凍結させた試薬は使用しないでください。正しい結果が得られないことがあります。
3. 試薬の開封後はなるべく早く使用し、保存する場合は蓋を開けて指定の条件で保存してください。
4. 測定範囲を超える検体については、精製水あるいは生理食塩水で希釈して再測定してください。得られた値に希釈倍数を乗じたものが測定値となります。
5. 製造（ロット）番号に関わらず、試薬の注ぎ足しは行わないでください。ロット変更後はキャリブレーションを実施して使用してください。
6. 検量用物質は別売品を使用してください。
7. レートアッセイですので、反応時の温度管理に留意してください。
8. 唾液や汗よりのアミラーゼの混入は誤差の原因となりますので、試薬の取扱いには十分注意してください。
9. Ca酵素法でアミラーゼを使用している測定試薬がキャリーオーバーした場合は正の影響を与える場合がありますので、注意してください。

廃棄上の注意

検体と接触した試薬及びサンプルカップ等は感染の危険性があるものとして処理してください。

【貯蔵方法、有効期間】

貯蔵方法

2~10℃で保存（冷暗所に保存し、凍結は絶対に避けてください。）

有効期間

12ヵ月（使用期限は外箱・ボトルラベルに記載）

【包装単位】

形態	包装サイズ
LST	(29+11.5)mL×2
A試薬 R-1	40mL×2
A試薬 R-2	10mL×2

注：各包装形態とも別売りです。

標準品は、酵素キャリブレーションプラス（別売り品）をご利用下さい。

【主要文献】

1. 出口松夫 他, オリゴ糖を基質とするアミラーゼ活性測定法の比較, 臨床検査 機器・試薬, 14(2), 201~212 (1991).
2. 白井秀明, 腭型アミラーゼ活性測定の常用基準法の設定, 臨床化学 37, Supp. 1, 25 (2008)
3. 前川真人, 検査と技術, 41(3), 173 (2013)
4. 加藤 隆則他: 医学検査 Vol. 53, No. 4, 411, 2004.
5. 社内データ

**【問い合わせ先】

キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社
学術担当
〒104-6004 東京都中央区晴海 1-8-10
ダイヤルイン 03-6219-7606

** 販売元 キヤノンメディカルダイアグノスティックス株式会社

東京都中央区晴海 1-8-10

製造販売元  株式会社 セロテック

北海道千歳市泉沢 1007-67

デタミナーL P-AMY G7